

NVC Monthly



同好会ニュース

寝屋川映像同好会会報

第60号(201407)

発行 竹田幸男

第9回 寝屋川映像フェスティバル開催



アルカスホール

新井副会長
終演あいさつ

会場受付風景



竹田会長あいさつ

第9回 寝屋川映像フェスティバルは、寝屋川市駅前、アルカスホール、メインホールで2014年5月31日(土) 13:30より開催。ほぼ8分の入りとなった会場で16作品を上映しました。映像同好会から、谷、天野、新井、竹下、竹田の5会員が出品し、それぞれ好評を得ました。次回開催時にはさらに多数の会員の出品を期待したいところです。

例会の窓

平成26年6月例会

日時：平成26年6月13日(金)

13:30～16:30

場所：寝屋川市民活動センター4階

ワーキングスペース

出席：新井 小林 佐伯 竹下 竹田 谷 田淵

欠席：2名(50音順敬称略)

例会次第

1. 各会員の最近の活動状況・情報交換

- ・AVCメモの内容を中心に話題を提供する。

2. 報告・連絡・協議事項

(1) 次号会報筆者 佐伯さん

(2) 例会日の再検討、第3金曜日では？

- ・7月は18日(金曜日)決定

- ・8月は第2金曜日

- ・9月・10月は考慮中。

- ・11月と12月は第3金曜日に決定

(3) 撮影会

- ・再度一から検討する。何か食べに行ったら？

(4) 第9回映像フェスティバルの結果。

- ・当日は運営もスムーズにいき、作品も好評であったと思う。

会場で他映像クラブ会員を対象にアンケートを取った。結果は会員個別にメールします。

(5) 第3回文化連盟展

- ・5月25日(日)谷会員の「うぐいすの巣立ちの頃 常寂光寺」他3作を出品。これも無事終了。

(6) 同好会ビデオ作品発表会

- ・平成27年3月14日(土)の予約が取れたので、この日に向けて準備を開始する。

(7) 例会作品の映写方法。BDプレイヤーを購入した。DVは新井さんのカメラを借用する。

3. 映写・合評

(1) 竹下さん 追想 去年の秋 西明寺・金剛輪寺 9分

- ・静止画の時に無音なので、近い場所の動画の雑音を入れてはどうか。
- ・最後の句をもう少しゆっくり流した方がいい、という意見あり。

(2) 竹下さん 東京見物 二つのタワー 9分

- ・東京タワーと東京スカイツリーと両方を訪れて、位置関係などを対照しながら興味深い映像にされている。

(3) 竹田さん ナルク設立20周年と被災地慰霊の旅 9分59秒

- ・急ぎの作品を作る必要がある時の参考として映写した。他人の撮った静止画と動画から静止画を取りだして編集した。音声は動画から取った。ナレーションは人工音声で、原稿は行事予定と画面を見ながら創作した。感銘を与えられるような内容にした。

(4) 谷さん うぐいすの巣立ちの頃 常寂光寺

(5) 森口さん(映像寝屋川) 塩釜の冷泉

- ・上記2作は第3回文化連盟展で映写した作品。参考として映写しました。

4. 会員の当面する問題点質疑応答

5. 来月の開催日 7月18日(金) 13時30分 4Fワーキングスペース
以上



ソラニン恐るべし

佐伯 節子

先日、娘が職場の知人からジャガイモをもらってきた。大きさは、指を丸めたぐらいから親指の頭ぐらいの小さなのがゴロゴロと……。誰も貰い手がなかったらしい。以前に、皮をむくのが難儀なような可愛い里芋をもらったことがあった。それは皮付きのまま電子レンジでチンして塩を振ると美味しくいただけた。

娘が不在で私一人の夕食に、そのジャガイモを食べようと洗ったら皮が緑化している。試しにチンして数個食べてみた。

すぐに喉がいがらっぽくなり、5分も経たないうちにしんどくなった。慌てて水を多量に飲み、パソコンで「ジャガイモ・ソラニン中毒」を検索。

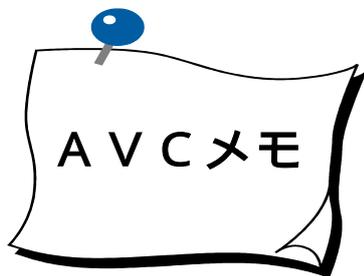
我が家のパソコン、起動がすごく遅い。心臓ドキドキしながら（脈拍測ってみたら80ぐらいだったから頻脈ではないな）検索結果を見ていると余計気分が悪くなった。「死亡することもあり」などを書いてあったからとても不安で、一人暮らしの老人の気持ちが少しは分かった気がする。さらに検索結果によると、「ジャガイモの毒は小さい未熟なものの方が多く含有されている」（フムフム）「ソラニン水溶性で、茹でると減少するが熱には強い」（茹でてないわ）「アトロピン様作用物質が含まれている」（それですぐに心臓ドキドキしたんやな）すぐに受診できるように準備しながら様子を見ていた。娘は夜遅く帰ってきた。「24時間生存していれば大丈夫」嘔吐も下痢もなかったが不安な一夜だった。危険を承知であほなことをしたので誰にも言えず、看護師である長女に後日報告したらやっぱり怒られた。当分ジャガイモは食べたくない。

あほなことといえば「熱中症」

エアコンが嫌いで家では冷房も暖房もあまり使わない。スタッフの多い職場では避けようがなくてつらい思いをしたが、転勤で一人勤務になり自分の好きな温度設定ができるようになり嬉しかった。その頃の出来事。蒸し蒸しとした日に扇風機だけで仕事をしていたら、いきなりのめまいと吐き気。動くとき持が悪いので近くの部屋の女性に電話してポカリスエットを買ってきてもらい嘔吐が少し落ち着いてから病院へ連れて行ってもらった。

診断は「眩暈症」だったが、あれは熱中症だと思う。とにかく症状はいきなり現れる。気づいたときは動かない。従兄も昨年熱中症で亡くなった。

今回思ったこと、いつまでも若くはない。食べ物でもったいないは止めよう。のどが渇く前に水分を取ろう。自分では温度変化に気づきにくい。室温を見てクーラーをつけるようにしよう。それから、パソコン検索もっと上手になりたい。



アマチュア映像はやかましい

竹田幸男

今回の第9回寝屋川映像フェスティバルでは、開会前に2人の委員が映像作品の音量レベルをチェックしてくれたので、映写中聞きやすい適正な音量で鑑賞して頂けたと思います。よく、他のクラブの映写会では、皆さんに何とか、しっかり鑑賞して頂こうと思う余り、音量が大きくなり、客席で苦痛を感じることも時たま起こります。

多くの発表会では貸しホールを使い、持ち込んだ映像音響設備を使って映写さ

れる場合があります。その場合は操作は自分たちでやります。音量調整も自分たちで自由に出来ます。今回のアルカスホールでは、そのようなやり方もできるでしょうが、せっかくホールに備え付けの強力なプロジェクターやホールの音響設備を利用しない手は無いので、しかしその場合は自分たちで機器を操作することは出来ないで、記録媒体だけ渡して、後はすべてお任せ、としました。そのため、音量もこまめに調整することが出来ません。そのため作品はBDディスクに収め、各作品の音量レベルは出来るだけ均一にし、作品ごとの調整が要らないようにしました。その結果、音量レベルは途中一回も修正なしで、小さすぎず、またやかまし過ぎずに全作品を映写できたと思います。

今まで、何度かこのような方法で映写してきましたが、最初の頃はやかましい、という声が出たことも事実です。その原因を考えるとアマチュア映像独特の問題があるのでは無いかと考えます。これは、このような欄で何度も書いているので覚えている方もいると思います。

私たちは一般消費者用のビデオカメラや、業務用でも低価格帯のカメラを使うことが殆どです。そのようなカメラの場合、ビデオカメラに内蔵マイクが取り付けられており、また音量は殆ど自動音量調整の状態です。

内蔵マイク、特にカメラが小さい場合であればカメラ内部の音を拾います。元々録画媒体はテープでしたから、テープを動かすためのモーターが回っています。また、テープを動かすメカニズムがあり、これらは音を出します。内蔵マイクはこれらの音を拾ってしまいます。こういう音は主に低音に分布していますから、内蔵マイクは、その音を拾いたくないので、低音はカットせざるを得ません。この様な理由で、アマチュアの使うカメラは低音がカットされ、耳障りな、やかましい音になります。

今はテープを使わないカメラが増えてきましたが、テープを動かすほかに自動焦点、ズームのためのモーターも回っていますから、テープが無くなっても、筐体内部の雑音条件はそれほど改善したとは思われません。

さらに自動音量調整です。一般の人は撮影の時に音量調整までは手が回りませんから音量調節はオートになります。この自動音量調整回路は小さな音が入って来た場合はめいっぱい感度を高め、大きい音が入ったら、ぐっと感度を抑えて小さい音も大きい音も大きな差が無いように記録します。そのため音量は常に大きく録音されています。先に言ったように、カメラ内部の音を拾わないように低音がカットされていますから、大きな音で、また低音が抑えられた、耳に痛い音が録音されています。アマチュアは、このように録音された音を編集に使うから出来上がった作品も音量が大きく、しかも甲高く耳に痛い音を聞く羽目になってしまいます。

一方、放送局で使うカメラにはマイクは付いていません。マイクは別の方法で

集音します。街頭での録音を見ていると棒の先にふさふさのカバー（ウインドジャマーなどという）の掛かったマイクを付けたものを一人が担いでしゃべる人の頭の上にかざして声を取っています。カメラから離れたマイクなので、カメラ内部の雑音を拾いませんから低音をカットする必要も無く自然な音が採れるでしょう。

このように考えると元々アマチュアの映像はやかましいのです。作品発表会へ行っても、いつも騒がしく感じます。低音の欠けた音で騒がしく、やかましく感じる音の内容は、水の音、滝の音、街の雑踏、車の警笛、祭り囃子の鉦の音、女性・子供の、ありったけの大声など。こういう音声はメーターの振れ以上にやかましく感じます。今回の発表会の映像媒体の作成には、このような、やかましく感じる音源に対するレベル配分も考えていますので、やかましく感じなかったのでは無いかと思います。

今から思うと、ホールの技術者はレベルメータを見て音量を調整します。ガラスで囲われた調整室では生の音は聞こえませんが、いつもの音源で振れているメーターの振れ方で判断します。ですから、アマチュア映像は普通の音源に比べてやかましいのだ、ということがホールの技術者にわからない内は、客席ではやかましく感じることになる、のでは無いか、と思っています。経験から、アマチュア映像の音はやかましいのだ、ということを知って、やっと今、彼らは手加減を始めたのでは無いか、と疑っております。 ■